

これからの大学に備えた勉強を小学校・中学校・高校でも行い、準備を万全にしよう

開倫塾

塾長 林明夫

Q: 2020年度から、大学入試や小・中・高校の学習内容がだいぶ変わるようですね。なぜですか。

A: (1)世の中が、急激なスピードで変化し続けているからです。

(2)現代社会の特徴は、

①知識が基盤になった社会、

②グローバル化した社会、

③課題が山積した社会、

この3点です。

(3)これからの社会でよく生きるためには、社会の担い手のすべてに、現代社会の特徴に対応できる能力が求められます。2020年度から、大学入試や小・中・高校の学習内容が大幅に改訂されるのは、このためだと考えられます。

Q: 大学はどのように変わるのですか。

A: (1)授業の仕方がガラッと変わると考えられます。

(2)今までのように、先生が、学生の前で「これはこういうことだよ」と教科書を解説する授業はどんどん減っていきます。

(3)毎回の授業では課題が示され、その課題についてどのように考え、解決したらよいかを、自宅や大学図書館などで授業前に自分の力で調べ上げ、考え、まとめ、自分のことばで発表し、議論できるように準備をすることが求められます。

Q: 自宅には資料が少ないでしょうから、大学では図書館が大事ですね。

A: (1)その通りです。大学にとって、図書館は心臓と同じです。「図書館なくして、大学なし」とさえいえます。

(2)多くの教科では、毎回の授業の課題に関する代表的な参考文献は予(あらかじめ)め示されますが、必要な文献は自分の力で探し、それらをもとに考えることが求められます。

(3)このような「課題探求型の授業」に最も役立つのが、大学図書館です。世界各国の大学は学生の課題探求に役立つことが使命となっていますので、365日、24時間オープンな大学図書館が数多くあります。そして、たくさんの学生がそこで机に向かっています。

Q: アメリカや日本の大学ではどうですか。

A: (1)私は、1998年にハーバード大学行政大学院の短期集中コースで学んだことがあります。その大学図書館には、長時間机に向かい続ける大学院生が数多くいました。

(2)慶應義塾大学の各キャンパスの図書館も、大学生や大学院生でいつもいっぱいです。

(3)ですから、将来、大学で学ぼうという志をもつ人は、小学生・中学生・高校生のうちから学校の図書館や公立図書館に毎日のように通いつめ、図書館に慣れ親しみ、図書館の使い方を身に付けて大学

に進学することをお勧めします。

Q: 具体的には、どうすればよいのですか。

A: (1) 毎日1回は学校の図書館に、週に1回以上は近くの公立図書館に行き、新聞や本、雑誌を読み、調べものをするを1日も早く習慣とすることです。

(2) 大学図書館の中には、手続きを取れば、地域の人々が利用できる場所がたくさんあります。事前に、大学図書館のHPで調べたり、電話で問い合わせたりして、OKだったらどんどん活用してください。

(3) 英語の新聞・本・雑誌にもどんどん触れ、英語に慣れ親しむことも大切です。

Q: 大学入試はどのように変わるのですか。

A: (1) 大学入試は、「記述式」が全教科に導入され、英語は「読む」「聞く」「書く」「話す」の「4技能同一配点」となるなど、大きく変わります。

(2) 英語も含め、大量の情報を短時間で正確に分析・理解し、自分の考えを論理的にまとめ上げ、自分のことばで発表する能力を評価することが、大学入試となります。

(3) 受験参考書や問題集を学習するだけでは解けない問題が、山ほど出題されます。

Q: 大きく変わる大学入試や学習内容に対応するには、どうしたらよいのですか。

A: (1) 普段から、「新聞」を1面からなめるようによく読み、「自分で考える力、批判的思考能力」を身に着けること。これぞという定評のある本、各教科や分野で「古典」といわれる本を繰り返し熟読し、「思慮深さ」を身に着けること。辞書を1日に10回以上引き、「語彙力」を身に着けることです。

「新聞」「読書」「辞書」を用いて「読解力」を育てることが、大学を目指すすべての人に求められます。

(2) 高校や中学校でも「課題解決型」の授業が大幅に取り入れられ、中学生・高校生にも「課題探求型の自己学習」が求められます。高校入試、中学校入試、公立中高一貫校入試も、大学入試と同様に大きく変化します。すべての前提は、「読解力」「予習力」「自己学習能力」です。

(3) 大学は、今までの2学期制から3学期制、4学期制と、短い期間で一つ一つの教科を履修する(学ぶ)ところがどんどん増えてきます。短期間で集中的に一つの教科を学び終えるのがこれからの大学ですので、「集中力」も欠かせません。

Q: 最後に一言どうぞ。

A: 2018年度の私立中学校入試では、100以上の学校で英語の出題がありました。2020年度からは、小学校5・6年生が教科として英語を学ぶようになりますので、当然すべての私立中学校入試で英語の出題がなされると思われます。算数・国語・理科・社会と同じレベルで英語の出題がなされるとしたら、英検準2級ないしは2級レベルと予想されます。また、世界に目を向けると、大学を目指す小学生は1年生から全教科を母国語ではなく英語で学んでいる国が数多くあるようです。私たちも頑張りましょう。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

2018年2月16日(金)10時58分